

上棟式のクライマックス『餅まき』



宮城県南三陸く気仙沼地区の、伝統的な上棟式(建前「タテマエ」、あるいは建舞「タテマイ」と呼ぶ)を見せていただく機会に恵まれました。新しい屋根の上には邪気払いの「破魔矢」の飾りと五色の吹き流しを掲げ、屋根の下には祭壇を組んであります。

国語の先生だったという方が、おめでたい席には欠かせない謡「四海波静か」を朗々と謡いあげます。「波風がおさまって世の中が平和なことを祝う」という詞で、この屋根の下に集う全ての人の安寧を願います。

四海波静かにて、国も治まる時つ風

伝統に則った上棟式/日常を、ふるさとを呼び戻す歩みが今日もどこかで



↑表側から見た破魔矢飾り
鬼門に向けて据え付ける

四海波静かにて 国も治まる時つ風
枝を鳴らさぬ御代なれや
あひに相生の 松こそめでたけれ
げにや仰ぎても
事も疎か(おろか)やかかる世に
住める民として豊かなる
君の恵みそありがたき
君の恵みそありがたき



we support ↓
RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
「しんぶん」

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたるの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

MAY
11
2013



グローブ持参で餅まきに
臨むツワモノ→
(さまざまな技術が着実に
受け継がれていますね!)

不定期掲載
やさやかな
復興のうた



2年間、洗っていなかったカーテンを洗い始めた。洗濯できるカーテンなの。家の中のことにまで気がまわらなかつたんだなと思った。これからは、震災前のように季節ごとに部屋の模様替えをしたり、庭の手入れをしたりしていこう。そういう気持ちになれた震災から3度目の5月。
(2013.5.2 on Twitter)

↑かわらばんの編集集中に出会った、短いけれど光り輝くような、元気の出る言葉を皆さんにご紹介します。今月はネットワークサービス「ツイッター」から、福島在住の方のつぶやきを。

準備は本当に大変だっただろうと思いますが、大災害を経た今、人の営みを具体的に脈々となつないでいくことの尊さが、より深く心に響きます。伝統行事には、一人一人の心の中に生きている「ふるさと」を、ふたたび現実世界に呼び戻す力があるのではないかと感じました。



餅まきのお餅は、施主さんの家について丸めたものを、専門の業者さんを持って行くと、餅まき用に個包装してくれるのだそうです。中には硬貨を和紙で包んだものが一緒に入った「アタリ」も用意されています。

餅まきのお餅は直会(ナオライ)といって、ごちそうを囲んでの祝賀会が始まります。

「近所どうしに住まわれているおさななじみが大人になり、それぞれ謡や神事などを分担し、ここを一つに執り行う様子がなんともいえずあたたかく、儀式であるのに格式ばっていないので、とても心に残りました。」

(聞き書きチームブログより)